

青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた(研修を受けて就農されたみなさん)

【準備型】

採択年度 営農類型	米麦等	野菜等	果樹
令和2年(2020年)		兵庫県 塚本 慶彦 さん	和歌山県 中山 将誓 さん
令和元年(2019年)		沖縄県 平良 卓也 さん	福島県 宮崎 遥 さん
平成30年(2018年)		千葉県 後藤 貴一 さん 神奈川県 本城 一貴 さん 滋賀県 佐生 和輝 さん	
平成29年(2017年)		宮城県 柳渕 泰孝 さん 栃木県 児矢野 翔吾 さん 静岡県 水見 翔人 さん 新潟県 鈴木 美香 さん 岐阜県 匿名希望 さん	
平成28年(2016年)		三重県 平松 香歩里 さん 佐賀県 中島 康太 さん 大分県 匿名希望 さん	岡山県 岡本 和正 さん
平成27年(2015年)		岩手県 吉田 祐一郎 さん 高知県 都築 廣和 さん	広島県 西森 恒平 さん
平成26年(2014年)	※秋田県 久保井 優司 さん	※秋田県 久保井 優司 さん	青森県 相馬 亘 さん 愛媛県 神野 哲彰・さやか さん
平成24年(2012年)		大阪府 川崎 佑子 さん	

※ 複数の類型について研修

青森県

相馬 亘さん(46歳)

研修先：先進農家

研修内容：果樹(栽培技術、販売方法)

新規就農を志した経緯・背景

前職の青果市場での仕事において、りんご生産者と情報交換しているうちに農業に興味をわき、先進農家で栽培技術や販売方法等について研修し、就農した。

研修中に工夫したポイント

- ・研修開始時から、樹園地の取得に向けて、情報収集して就農準備を進めた。
- ・病害虫は、農薬の種類、散布方法等、細かく聞き取りし、写真で記録しながら覚えた。
- ・りんご樹の個性に応じた剪定が難しく、研修先農家の技術をひたすら見て身につけた。
- ・積極的に地域での交流を行い、地元農家とのつながりを構築した。

資金の活用例

研修中の生活費



今後の取組

省力化を図るため、反射シートを敷かない、葉を取らなくても色が付きやすい品種に改植していきたい。

人員を確保するためには、通年雇用が必要であることから、りんごの農閑期にも作業ができる体制を整備していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修(H26)

- ・りんごの栽培管理全般(剪定、着色管理、収穫、選果等)を研修した。
- ・準備型の資金は、生活費に充てた。

就農(1年目)

- ・りんご0.9ha
- ・就農1年目に経営開始型に移行した。
- ・役場のサポートを受け、青年等就農計画を作成した。
- ・農業委員会から農地流動化情報を確認し、農地を確保した。

現在(就農7年目)

- ・りんご2.4ha
- ・農業所得は順調に増え、1年目の約3倍を確保した。
- ・9割は仲卸業者との相対取引、残りは、農協及び青果市場に販売した。

今後の目標(就農10年目)

- ・りんご2.4ha
- ・色が付きやすい品種を増やし、省力化する。
- ・人員を確保するため、通年雇用できる体制を整備する。

吉田 祐一郎 さん（35歳）

研修先：先進農家

研修内容：野菜（栽培実習、農業機械操作）

新規就農を志した経緯・背景

関東で就職していたが、28歳の時に帰郷。当初は就農を考えていなかったが、近所に住むトマトの先進農家に誘われたことを契機に、農業という仕事に興味を持つようになった。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



研修中に工夫したポイント

- ・研修終了の半年前から、就農計画作成や就農準備を並行して進め、円滑に就農できた。
- ・水耕栽培等の最新のシステムを導入している研修先で研修することで、農業の先進技術に早くから触れることができた。
- ・地域の若手勉強会や指導会等に積極的に参加するなど地域との交流を行い、地元農家とのつながりを構築。

今後の取組

更なる単収向上に向けて、自分のやり方を模索し、経験を積み重ねながら、質にこだわったトマトを作りたい。

就農に向けた推移と今後

研修（H28～29）

農作業全般
施設トマトの栽培管理

- ・平成28年に研修開始
- ・資金を活用し、生計を維持

就農（H29）

施設トマト 7a

- ・近隣の先進農家の指導を受けながら栽培管理。
- ・圃場ごとの条件の違いに苦労。

現在（就農6年目）

施設トマト 16a

- ・若手勉強会に参画し、積極的に技術研鑽。
- ・JAトマト専門部の仲間と共に生育環境のモニタリングに取り組む。

今後の目標（就農10年後）

施設トマト 16a～20a

- ・環境モニタリング等のスマート農業技術を活用し、単収向上や高品質なトマトの生産を実現したい。

柳 渕 泰孝 さん (24歳)

研修先：農業大学校

研修内容：施設野菜（座学、栽培実習等）

新規就農を志した経緯・背景

実家が専業農家で水稻（278a）といちご（50a）を栽培してきたが、両親の年齢も考え、高品質いちごの生産拡大により経営を安定させたいと思い親元就農を志し、いちごの生理、生態及び病害虫の防除等や農業経営全般を研修した。

研修中に工夫したポイント

- ・宮城県農業大学校で農業の土台となる知識を学んだのち、自宅へ就農、自宅の栽培だけでなく地域周辺や県南のイチゴ農家を視察し自宅の栽培に取り入れた。
- ・普及センターや試験場の巡回指導を活用し、栽培について疑問に思ったことや病害虫に効果的な薬剤など積極的に質問し実践した。
- ・普及センター主催で開催されている資金繰りや農薬についての勉強会に参加。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



今後の取組

- ・収量・品質の向上と経費を両立させる。
- ・病害虫防除技術を習得し、品質を向上させる。
- ・破損施設を修復し、稼働率を向上させる。

就農に向けた推移と今後

研修（H29～31）

- 宮城県農業大学校へ入学
- 農業技術、経営全般を取得
- 農業の土台となる知識や今後、必要となる免許を取得
- 資金は研修期間中の生活費に充当
- 一部は、就農準備のために貯蓄



就農（H31～）

- 雇用形式で親元就農（いちご栽培全般）
- 資金を活用し「環境モニター」を導入
- 県の新品種である「にこにこベリー」を導入
- JAイチゴ部会との情報共有による技術向上



現在（就農3年目）

- 収穫、選別、育苗担当
- 「にこにこベリー」部門の栽培を担当
- 栽培技術、出荷先の規格・選別技術を習得
- 5～6月の規格外は冷凍いちごとして道の駅で販売



今後の目標（就農5年後）

- いちご部門の経営継承
- 収量向上だけでなくコスト面も考え両親（水稻部門）と協力しながら収益を向上
- 病害虫防除技術の習得による品質向上
- カーテンや欠損施設の修復による稼働率向上

秋田県

久保井 優司 さん (46歳)

研修先：先進農家

研修内容：野菜＋水稻（実地研修、機械操作、座学）

新規就農を志した経緯・背景

平成24年度に東京脱出を考えるようになり、新・農業人フェア・移住フェア等に参加したほか、相模原市で田んぼを借りて米栽培を試みた上で、無農薬の米栽培で新規就農する決意を固め、妻の了解を得る。

妻の実家の能代市など関係機関へ相談の上、ネギ農家になる決心をした。決意を固め、平成26年能代市に移住。

資金の活用例

- ・経営開始に必要な設備・農機具の導入
- ・運転資金



研修中に工夫したポイント

- ・非農家からの就農のため園芸メガ団地に参加する先進農家での研修
- ・多額の費用を要する農業機械・作業施設の準備に各種制度の活用
- ・積極的に地域と交流を行い、地元農家とのつながりを構築し、土地の確保に努める

今後の取組

- ・地域の農地を集約し、経営規模の拡大
- ・規模拡大に伴う人員、人材の確保
- ・通年的な売り上げをあげる体制整備

就農に向けた推移と今後

研修（H26～27）

- ・農事組合法人グリーンファーム常盤で研修
- ・ネギの栽培等全般、冬季の作物栽培(キャベツ等)、水稻・大豆作業全般
- ・病虫害防除等の習得
- ・農業用機械操作の習得等



就農準備（H26～27）

- ・農地の取得
- ・農業用機械の取得
- ・営農計画の策定

令和2年度現在
（就農5年目）

- ・ネギ、キャベツの規模拡大
- ・キャベツ、ネギのネットワークタイプ園芸拠点整備計画の実現



今後の目標（就農8年後）

- ・地域の若手生産者と一緒に農産物販売額1億円
- ・規模拡大により、利益の残る農業経営

福島県

宮崎 遥さん (36歳)

研修先：農業総合センター果樹研究所

研修内容：果樹（栽培実習、病害虫実習 等）

新規就農を志した経緯・背景

親戚の農業を手伝った時に、『農業って儲かるのか』と疑問に思い、情報収集を開始。仕事が結果に直結する点、自分が思ったことを突き詰めていける点に魅力を感じ、果樹研究所で研修を開始して就農を志す。

研修中に工夫したポイント

- ・非農家出身、ほぼ経験なしからの就農のため、研修機関以外の先進農家でも経験を積み技術習得に努めた。
- ・就農予定地域の地域コミュニティに入会し、新規就農に当たっての成園地の情報収集を地域一体となって行った。
- ・剪定技術習得のために、就農予定農地の成園でも実技研修を行った。
- ・研修中に、更地だった農地の紹介を受けて、地主の許可を得た上で新品种果樹を主体に新植準備等を進めた。

資金の活用例

- ・独立・自営就農に向けた資材購入等の費用
- ・研修期間中の生活費



今後の取組

地域連携を図り、まとまった収量を確保して海外販売等の販路拡大にチャレンジしたい。

GAPの取得へ意欲的に取り組んでいく。

就農に向けた推移と今後

研修 (H31.4～R2.3)

栽培実習、機械操作、
県内農家視察等

- ・準備型を受給
- ・研修中に就農予定農地への新植準備を進める

就農準備 (H31.4～R2.11)

研修と並行して独立に
向けた営農環境の整備

- ・研修終了後は、地元の果樹農家へ雇用就農
- ・雇用先農家を通じて、成園地の確保を進める

現在 (就農3年目)

モモ116a、リンゴ30a
を夫婦2人で経営

- ・経営開始型を受給
- ・農地中間管理事業を活用して規模拡大に取り組む
- ・ほ場近くに作業小屋を購入

今後の目標 (就農5年後)

法人化し、従業員を雇用することにより規模拡大

- ・地域連携で収量を確保。海外販売等を展開
- ・GAPを取得し、安全性や品質の確保、持続的な農業生産に取り組む。
- ・地域コミュニティの活性化と新規就農希望者への支援

栃木県

SUNNY SIDE FARM

児矢野 翔吾 さん (29歳)

研修先：先進農家

研修内容：施設野菜（トマト栽培全般）

新規就農を志した経緯・背景

非農家出身だが野菜販売から農業に興味を持ち、研修中に紹介された農家からハウス設備一式を譲り受けて、養液トマト・ミニトマトの養液栽培を開始した。

研修中に工夫したポイント

- ・人脈を活かしての情報収集に努めた。
リタイアするトマト農家の情報を農業資材業者からの紹介を受けて、1年間研修して設備活用や環境条件を学び、中古ハウスや設備等を全部譲り受けて就農した。
- ・中古ハウス修繕用の県補助事業の情報をリサーチ、就農後に活用した。
- ・生産やパート管理等を中心に担当した、販路開拓は営業担当の友人と協力して業務分担を検討した。

資金の活用例

参考本の購入、先進農家の視察、生活費など



今後の取組

さらなる規模拡大を図り、雇用を増やして働きやすい環境を整備する。
ミニトマトを中心に個人ブランド化で販売先の拡大を行う。
自身の経験から、就農アドバイスや研修生受入れ等に協力し、未来の新規参入者を応援したい。

就農に向けた推移と今後

研修1 (H29～30)

野木町トマト農家で
トマト栽培の研修開始

- ・農業次世代人材投資事業
準備型を受給開始

研修2 (H30～R1)

真岡市トマト農家で研修
後、ハウス50aを譲り受
け養液トマト栽培を開始

- ・真岡市に移住
- ・農地、ハウス等入手

現在 (就農3年目)

ハウス10a増設、
費用は認定農業者の
スーパL 資金を活用し
た

- ・令和3年度栃木県農業大
賞「芽吹き力賞」部門の
栃木県知事賞を受賞

今後の目標 (就農10年後)

規模拡大で目標100a
法人化

- ・自社ブランド力強化
- ・自身の経験を活かし
た新規就農者の支援

千葉県

農業次世代人材投資資金(準備型)

後藤 貴一 さん (35歳)

研修先：農業大学校

研修内容：野菜(座学、栽培実習 等)

新規就農を志した経緯・背景

他の会社に法務担当として勤務していたが、自由度が高く、自分の想いをそのまま形にできる農業に従事したいと考えた。親の水稻の経営に加えて、新しいことにチャレンジしたいと思い、農業大学校でネギの研修を1年間行った。

研修中に工夫したポイント

- ・就農後にネギ栽培を行うために、農業大学校の研修以外に、自主的に問い合わせ、県内外の複数のネギ農家に研修を受けに行った。現在も、この時の人脈が農業技術や販路の共有などに活かしている。
- ・親の経営を法人化するために、農業大学校の座学で講師だった千葉県農業会議の協力を得た。前職の知識・経験も活用して法人化した。
- ・就農後の規模拡大を見据えて農地の情報を集めた。
- ・町会活動への参加等により、非農家地主からの耕作依頼が定期的に来るようになった。

資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・法人設立費用



今後の取組

- ・目まぐるしく変わる情勢に対応できる柔軟な経営をする。
- ・リスク分散のために、スーパーや直売所の販売を拡大する。
- ・農福連携では、ハンデのある人も一緒に楽しく野菜を作っている。今後、幅を広げ強化したい。
- ・規模拡大に拘らず、適正規模での経営を検討する。

就農に向けた推移と今後

研修(H30)

千葉県立農業大学校にて研修。座学、栽培実習、農業機械、農家研修等

- ・平成30年に研修開始
- ・ネギの技術習得のため、大学校の研修とは別に県内外のネギ農家へ自主的に研修を受けた。

就農準備(H30)

研修中に親の経営の法人化。経営継承及び新規部門のネギ栽培の準備

- ・千葉県農業会議の協力を受けて法人化
- ・就農と同時に「株式会社とねぎファーム」の代表取締役就任。

現在(就農4年目)

ネギ+水稻の経営

- ・ネギ+水稻で607a
- ・周辺から耕作依頼があり、規模拡大(290a→607a)。
- ・耕作放棄地を開墾、耕作。
- ・農福連携でネギの袋詰め等に5~6名の受入。
- ・研修生の受入も実施。

今後の目標(就農6年後)

販路の拡大と農福連携の強化

- ・スーパー等の販売を拡大したい。
- ・農福連携は今後強化したい。
- ・ネギの栽培技術を向上させたい。
- ・緑肥の活用を進めたい。
- ・想定以上に農地が集まったので、まずは現在の規模での経営安定を目指す。

神奈川県

本城 一貴 さん (46歳)

研修先：かながわ農業アカデミー

研修内容：野菜(座学、栽培実習 等)

新規就農を志した経緯・背景

体力や判断力がピークにある40代で、自らの力量を試す挑戦がしたいと考えていました。そのフィールドは農業が最適と考え、新規就農しました。

研修中に工夫したポイント

- ・就農計画の作成
天候や技術不足により売上は不安定です。しかし、播種作業だけは確実に実行する計画を作成しました。
- ・農地の確保
農地を確保するためには農地を適正に管理する能力を証明すべきと考え、かながわ農業アカデミーで実技と資格の取得に励みました。
- ・地元農家での実習
農業者として、資質の有無を見極めて頂く目的で実習に取り組みました。

資金の活用例

乗用トラクター、
歩行型管理機、
一輪管理機、移植機、
パイプハウス、資材等
購入経費



今後の取組

- ・冬季の売上と労働時間の短縮を目指します。そのために、保温資材を活用した作型と果菜類を導入してまいります。
- ・JAとの連携を強化し、単価を向上してまいります。そのために、品質と定量出荷に努めてまいります。
- ・地域との連携強化を目指します。そのために、河川の草刈作業や地域行事へ積極的に参加してまいります。

就農に向けた推移と今後

研修(H30.4~H31.3)

農作業全般
野菜の栽培、収穫、調整

- ・平成30年4月研修開始
- ・大型特殊免許取得

就農準備(H30.4~H31.3)

農地を選定(19a)

- ・農地確保のため参入希望の市を訪問。
- ・青年等就農計画の作成、認定。

現在(就農1~4年目)

露地野菜(71a)

- ・経営開始型に移行し、農業所得は経営開始3年目で目標所得を達成。
- ・就農4年目にJA春キャベツ部会に加入。

今後の目標(就農5年後)

露地野菜(80a)

- ・保温資材活用の作型導入
- ・果菜類(ナス等)の導入
- ・JA経由でスイートコーン出荷の強化
- ・地域行事への参加

静岡県

農業次世代人材投資資金（準備型）

水見 翔人 さん（35歳）

研修先：先進農家

研修内容：野菜（イチゴ栽培技術）

新規就農を志した経緯・背景

前職はデスクワーク中心であったが、外で体を使い、周りの人と協力しながら作物を育てていくライフスタイルにあこがれ、静岡県のがんばる新農業人支援事業に応募した。現地を見学して、イチゴの高設栽培に魅力を感じ、研修では栽培技術を習得した。

研修中に工夫したポイント

- 時間があるときに図書館へ行き、植物に関する本やイチゴの栽培に関する本を読み勉強した。
- 選果などの各作業にかかる時間を測定し、仮に自分1人でやった場合の作業時間を分析し、独立就農した際の作業の流れをシミュレーションしていた。
- 研修先は養液の濃度がほ場ごとに違ったため、養液の濃度と量の違いで苗の生育がどのように変わるか定点観測を行った。
- 研修中から就農地を決め、ハウスを建設しはじめたため、円滑に就農できた。

資金の活用例

生活資金



今後の取組

地域の課題であるアザミウマの防除について、天敵の導入や紫色光照射の技術を導入し、防除体系を確立していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修（H30～H31）

イチゴの栽培技術全般
苗作り、管理作業、収穫、出荷作業

- 平成30年に研修開始
- イチゴの栽培技術を習得
- 資金で生計を維持

就農準備（H30～H31）

農地の利用権設定
（60a）、施設の建設

- 研修先農家にも協力してもらい、農地中間管理事業で利用権設定
- 県単事業の資金を活用して施設を建設

現在（就農4年目）

イチゴの作付け（20a）
イチゴ栽培全般

- 経営主としてイチゴを栽培し、生食用でJA出荷
- 経費を抑えることで所得を伸ばし、令和2年は所得600万円以上を達成

今後の目標（就農9年後）

規模拡大、販路拡大

- 栽培体系を安定させた上で規模拡大していく
- 直売やネット販売などを活用し、販路の拡大を目指す

鈴木 美香 さん (39歳)

新規就農を志した経緯・背景

歯科衛生士として働いていたが帰りが遅く、家族との時間が持てないため辞めた。親戚の農家でいちご「越後姫」栽培の良さを見聞きするうちに興味を持ち、栽培してみたいと思うようになった。

いちご栽培は未経験だったが、地元JA部会の相談窓口や研修先が明確だったことで、スムーズに先輩農業者の下で研修ができ、安心して就農することができた。

研修先：先進農家

研修内容：野菜（いちご定植、栽培管理 等）

資金の活用例

生活費

（所得確保が難しい研修中の生活費に充てることができた）



研修中に工夫したポイント

- ・研修時代から指導農家とともにいちご部会の指導会やハウス巡回等に参加し、栽培技術の習得に努めた。
- ・普及指導センターの主催する農業簿記講習を受け、事前に経営管理の基礎を身につけた。
- ・農地中間管理機構を活用して農地の賃借手続きを進めた。
- ・研修後の速やかな営農に向けて、指導農家や関係機関・団体等の助言を得ながら、補助事業等の情報収集を行い、初期投資のかかるハウスの建設や資材の準備を行った。

今後の取組

- ・経営安定化を図り、持続可能な農業を実現する。
- ・新規就農者、新規栽培者が定着しやすい産地として後進の育成にも注力していく。
- ・「越後姫」のブランド化を進め地域農業の活性化に貢献したい。

就農に向けた推移と今後

研修（H30.3～R1.9）

いちごの栽培管理、収穫、出荷調整等

- ・平成30年3月に研修開始
- ・資金や夫の収入で生計を維持。

就農準備（R1）

就農地を選定し、土入れ、整地を実施（18.9a）

- ・農地中間管理機構を通し、農地賃借。
- ・県等の支援により、青年等就農計画を作成。
- ・補助事業の活用に向け情報収集。

現在（R4 就農4年目）

いちご（7.8a）

- ・経営開始型に移行。資金を活用しながら良好な経営を維持している。
- ・農福連携により労働力を確保し、効率的な経営を実践。

今後の目標（就農5年目以降）

いちご（7.8a）

- ・今後も安定生産を目指し、収量・品質の維持に努める。
- ・技術研鑽に励む。

匿名希望 さん（43歳）

研修先：下呂地域担い手育成総合支援協議会

研修内容：野菜（夏秋トマト栽培経営管理）

新規就農を志した経緯・背景

都会から下呂市へ移住することになり、豊かな自然の中で四季を感じながら暮らしていくには、農業が理想的な営みであると考えた。

未経験分野の仕事であったが、下呂市では就農に向け充実した支援を受けられることができ、自分でもやっていけそうと判断した。

資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・就農に向けた運転資金



研修中に工夫したポイント

- ・研修と並行して、農地・施設の確保を図り、2年間の研修後に、自営就農を果たした。
- ・独立自営就農を見据えた実践的な研修を行い、指導者から産地に根付いた多くの栽培技術を学んだ。

今後の取組

1人での管理は難しい27aのハウスを、農福連携の取り組みで地域の社会福祉法人の労力を受け入れ、無理のない生産管理により、収益性を向上させる。

また、加工販売等6次化に取り組む。

就農に向けた推移と今後

研修（H29～30）

夏秋トマト栽培経営管理

- ・平成29年に研修開始
- ・農業機械の運転免許取得
- ・次世代資金で生計を維持

就農準備（H29～30）

研修と並行して、農地・施設の確保

- ・農地中間管理機構を通じて農地賃借（55a）
- ・資金により農機等を購入

現在（就農4年目）

施設野菜（夏秋トマト）

- ・27aのハウスで栽培
- ・12aの農地を購入
- ・順調に農業収入、所得を拡大

今後の目標（就農10年後）

まず夏秋トマトの栽培に注力し、初期投資を完済したうえで、野菜の種類を増やし、加工販売等6次化に取り組む

平松 香歩里 さん (43歳)

研修先：農業大学校

研修内容：野菜（座学、栽培実習）

新規就農を志した経緯・背景

嫁いだ家が兼業農家だったため、農作業を手伝うことがあり、そこで農業の楽しさを知った。仕事で留守にしている間に、子どもがけがをしたことがきっかけで、家でできる仕事をしようと思い、ある程度時間の融通が効く農業を志した。

資金の活用例

農地の造成等



研修中に工夫したポイント

- ・農業大学校では野菜を専攻し、イチゴの基本的な栽培管理方法、品質管理方法を学んだ。
- ・農業大学校在学中から、県・市・JAに相談しながら、営農計画の策定やハウス建設の準備を進め、円滑に就農することができた。
- ・先輩のイチゴ農家を訪れ、就農時や現状の経営の話を知るとともに、実際に作業を体験させてもらったことで就農のイメージが具体的にいった。

今後の取組

今年度より事業を活用し、有機質資材を用いて、減農薬・減化学肥料栽培を始めた。次年度以降もこの取組を継続し、取組面積拡大を目指す。

農村カフェ「Café FRAGARIA」の経営を安定させ、収穫がない時期の収入を確保する。

就農に向けた推移と今後

研修（H28）

農業全般、施設野菜栽培

- ・平成28年度に農業大学校で研修
- ・大型特殊やけん引の免許取得。
- ・イチゴ炭疽病でほぼ全滅し、病害虫管理・品種の重要性学ぶ。

就農準備（H28）

農地の確保

- ・義父の知り合いから農地を借入。
- ・ハウスの建設に向けて業者との調整。
- ・青年等就農計画の認定。

現在（就農6年目）

イチゴ 18a

- ・令和元年に夫が参入し、夫婦で経営。
- ・全量直接販売。
- ・イチゴシロップの販売、農村カフェの経営等、6次産業化にも取り組む。

今後の目標（就農10年後）

イチゴ 18a

- ・減農薬・減化学肥料栽培の取組を拡大する。
- ・農村カフェの経営安定。

佐生 和輝 さん (37歳)

研修先：農業大学校

研修内容：野菜（栽培管理、農業経営 等）

新規就農を志した経緯・背景

父親が兼業農家から農業一本へ転身したこときっかけに、自分自身も野菜や花の収穫を手伝うようになり、農作業の楽しさを感じていた。そんな中で、転職を考えたことを機に、本気で就農を考えるようになった。また、準備型農業次世代投資資金があることも背中を押してくれた。

研修中に工夫したポイント

- ・主品目（イチゴ）の栽培技術習得に加え、様々な品目の栽培技術習得について学んだ。
- ・イチゴ経営におけるコストや初期設備投資等について学び、就農計画の作成に着手できた。
- ・ハウス建設や少量土壌培地耕システムの構築について学ぶことができた。
- ・卒業生の先輩農家にハウスの自家施工等について、アドバイスをもらった。

資金の活用例

- ・研修中の生活資金
- ・ハウスの建設、システムの構築資金
- ・販路、設備等の調査費用



今後の取組

軌道に乗り始めた観光イチゴ園の経営をより充実させるために規模を拡大する。また、経営の合理化を図るため、法人化やスマート農業の実践を目指す。さらに、地域貢献という意味合いも込め、雇用を推進する。

就農に向けた推移と今後

研修（H30.4～H31.3）

少量土壌培地耕システムによるイチゴの栽培管理、農業経営に関する知識

- ・平成30年4月に研修開始
- ・大型特殊免許取得
- ・準備型の資金や貯金で生活を維持

就農準備（H31.4～R1.7）

○農地確保
○ハウス建設、システム構築

- ・農地中間管理機構から農地借入
- ・業者と建設ハウスの調整
- ・ハウス建設費用の一部を準備型の資金を活用
- ・システム構築（自家施工）
- ・青年等就農計画の認定

現在（就農4年目）

少量土壌培地耕システムによるイチゴ栽培
本圃ハウス6棟（2,820㎡）
育苗ハウス1棟（420㎡）

- ・観光イチゴ園を中心とした消費者に顔の見える経営
- ・10品種のイチゴを栽培
- ・直売所完備

今後の目標（就農8年後）

- ・規模拡大（増棟）し、より充実した観光イチゴ園を目指す
- ・環境制御等におけるスマート農業の実践
- ・法人化
- ・雇用労働力の導入

川崎 佑子 さん (39歳)

研修先：農業大学校

研修内容：野菜（主に病害虫）

新規就農を志した経緯・背景

- もともと教育関係で働いていました。食えること、体を動かすこと、ものを作ることが好きで、徐々に就農を考えるようになりました。
- 大阪府の農業大学校を卒業し、羽曳野市の農園で雇用就農した後に独立しました。子供でも野菜でも、私は『育てる』ことが好きで、今後、農業と教育を繋げていきたいと思っています。

研修中に工夫したポイント

- 病害虫について、テーマをもって研究に取り組み、発生メカニズムの理解や対策の検討を行いました。最終的には論文投稿をしました。
- 農業大学校から紹介を受けたインターン先に毎週末通い、指導を受けながら農作業の実践経験を積みました。
- 東京で開催された農業経営講座への参加や、大型特殊免許、土壤医検定等の資格取得などにすすんで取り組んでいました。
- 関係機関と相談を重ねて、農地取得や認定の取得方法、事業活用など就農準備に向けた情報収集をしていました。

資金の活用例

- 就農に向けた準備資金
- 研修期間中の生活費



今後の取組

- 現在取り組んでいる体験イベントの回数や来客数をさらに増やして農を通じたイベントによる売上の拡大を目指す。
- 高品質化、単収の増加により、いちじくを主力品目として確立する。
- 子供向けの農業塾を開催し、農の魅力を子供へ伝える。

就農に向けた推移と今後

研修（平成24～26年）

- 農業大学校
- 露地野菜の栽培管理
- 病害虫対策の基礎学習およびテーマを持った研究
- 大型特殊免許取得
- 農業技術検定や土壤医検定などの資格取得



雇用就農（平成26年～令和元年）

- 研修先からの紹介で羽曳野市の農園に雇用就農
- いちじくと露地野菜の栽培技術の習得
- 農薬を使わない栽培技術の習得
- 地域の地主との繋がりができ、農地の貸借につながる



独立就農（令和元年～現在）

- 従業員1名を雇用
- いちじくと多品目の露地野菜を栽培
- 畑での料理教室やピザ作りなどの体験を実施（年間10回程度）
- 援農ボランティアを年間200名以上受け入れ



今後の目標（令和5年～）

- 生産量増加、品質向上により、いちじくを経営の核となる品目へ
- 子供向けの農業教室やレクリエーションイベント（収穫体験など）の通年開催、それに伴う売上の拡大



塚本 慶彦 さん (35歳)

研修先：農業大学校

研修内容：野菜（実践研修、模擬販売研修）

新規就農を志した経緯・背景

観光農園のイチゴのおいしさが忘れられず、一念発起。地元民間企業に勤めていたが、脱サラし、県立農業大学校でイチゴの栽培技術や経営ノウハウについて研修

研修中に工夫したポイント

- ・本格研修を受ける前に県内外含めて多くのイチゴ農家を訪問、県インターンシップ事業も利用して、情報収集。
- ・研修では、実践に近い規模で試行栽培が可能な県立農業大学校を選択し、収穫労力負荷などを実際に体験し分析。
- ・無収入期間を避けるため、研修終了翌日に就農できるよう施設整備などの補助事業の活用時期を前倒し、研修中に就農ハウスの設置完了。
- ・就農後は、イチゴ栽培以外にも積極的に地域と交流を行い、地元農家とのつながりを構築。

資金の活用例

研修中のイチゴ用資材購入等



今後の取組

- ・自社園地での直売と観光農園による経営の安定
- ・地域の集落営農オペレーターとして、農地の保全管理への貢献
- ・キッチンカーによる自社イチゴスイーツ事業の展開

就農に向けた推移と今後

インターンシップ等 (R1～R2)

インターンシップ研修
県内外のイチゴ農家訪問

- ・栽培事例の情報を収集
- ・プランター等でイチゴを試作

実践研修 (R2～R3)

県立農業大学校（実践研修）
イチゴハウス2棟で栽培

- ・同期仲間と切磋琢磨
- ・資金や研修中の売り上げにより、生活費を確保

現在（就農1年目）

施設園芸（イチゴ）（21a）
集落営農オペレーター

- ・R3から作付け開始
- ・経営開始型に移行し、農業売上は一作換算で約1,500万円で順調に所得を確保

今後の目標（就農5年後）

安定経営を目指す

- ・付加価値の向上のため、冷凍イチゴなどを使ってスイーツの商品化

和歌山県

中山 将誓 さん (28歳)

研修先：先進農家

研修内容：果樹(実践研修)

新規就農を志した経緯・背景

実家は柑橘、梅、スモモを栽培する果樹農家。地元の農協に勤務していたが、農業は自分が経営者として頑張れば成果を出せるという点に魅力を感じ、経営継承のため果樹の高品質栽培技術等の研修を1年間受講した。

資金の活用例

生活費として充当



研修中に工夫したポイント

- ・地元関係機関で組織された「紀州田辺新規就農者育成協議会」を研修機関とすることで、地域の篤農家で柑橘、梅の高品質栽培について計画的に研修を受けられた。
- ・最低、1日1つ質問することで、課題を持って研修に取り組んだ。
- ・温州みかん及び梅の防除、剪定、みかん高糖度化のためのマルチ敷設など研修先で習得した優れた技術、手法はすぐに実家で実践した。
- ・経営継承の準備として、研修中から実家の経営規模を拡大するとともに、園地を若返らせる為、計画的に改植を進めてきた。

今後の取組

- ・R4年9月青年等就農計画認定、R5年1月经営継承予定。
- ・計画的改植を継続し園地を若返らせ、収量増に繋げる。
- ・R4年度に経営発展支援事業を活用してドライフルーツ製造施設を建設し、販売単価の向上と気候変動にも耐えられる安定した経営を目指す。

就農に向けた推移と今後

研修(R2~R3)

みかん、梅の防除、剪定等作業全般

- ・令和2年8月に研修開始(1年間)
- ・資金や農園バイト収入で生計維持

就農準備(R2~R3)

実家の規模拡大と計画的な改植(5ha→8ha)

- ・実家園地若返りのため、計画的に改植を実施
- ・離農する果樹農家の園地を引き受け、整備と改植を実施

現在(就農2年目)

親元就農

柑橘3.1ha、梅4.7ha、スモモ0.2ha

- ・栽培全般の計画及び作業を担当
- ・ホームページを開設して
<https://www.nakayamafarm-farm.com> 通販開始

今後の目標(就農6年後)

梅の老木園を柑橘に改植

柑橘3.7ha、梅4.1ha、スモモ0.2ha

- ・令和5年1月经営継承
- ・計画的な改植の効果による収量増及びドライフルーツの製造、販売により収益を増加させ、計画目標を達成する

岡山県

岡本 和正 さん (39歳)

研修先：JA晴れの国岡山

研修内容：果樹（栽培実習、出荷・販売方法の習得等）

新規就農を志した経緯・背景

民間会社に技術職として就職、安定した生活を送っていたが、家建てるにあたり、かつて思い描いた農業、田舎暮らしへの憧れが思い起こされ、ぼんやりと就農を意識した。移住セミナーで倉敷市玉島のももに出会い、月に1回産地を訪問し、農家に触れる1年の後、就農を決意した。

研修中に工夫したポイント

- ・もも栽培の基本作業である、せん定、袋掛け、収穫、そして土壌改良、等を学びつつ、雑木林の伐採・伐根による開墾等園地造成、経営管理等、幅広く学ぶことに努めた。
- ・研修期間は、土日など休日を設定せず、更に受け入れ農家より早く園地に行き、受入農家の生活スタイルに合わせた研修に取り組んだ。
- ・地域コミュニティーをはじめ消防団や農業後継者クラブ等積極参加し、自身の目標所得(1000万)を言い続け、自分を印象づけることに努めた。

資金の活用例

- ・研修中の生活費
- ・農業機械、小農具、資材等の購入費
- ・他産地や市場視察費



今後の取組

安定的に高品質なももが生産できるよう、受入農家から学んだ技術を実践していきたい。そしてそれを後進に伝えていきたい。

新規就農希望者と産地の架け橋になり、産地を盛り上げたい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H29.1~30.12)

ももの栽培・集出荷等
農業全般

- ・農業機械の操作技術習得
- ・経営、肥料等農業経営に係る全般の座学研修受講

就農準備 (H29.1~30.12)

もも 105a(就農時)
(うち成園30%)

- ・桃部会の協力により農地を確保(賃借、開墾)
- ・普及員や役場のサポートで青年等就農計画を作成。

現在 (就農4年目)

もも 170a
(うち成園70%)

- ・経営開始型へ移行し、農業所得400万円を確保。
- ・桃部会役員等を務め、新規就農相談に対応。

今後の目標 (就農10年後)

秀品率、正品率の向上
天候に負けない安定生産

- ・繁忙期の人員を確保し、高品質果実を安定的に生産する。
- ・農業所得目標1000万円。

広島県

農業次世代人材投資資金(準備型)

にしもり
西森

こうへい
恒平

さん (32歳)

研修先：広島県果実農業協同組合連合会

研修内容：果樹(ぶどう栽培技術、経営 等)

新規就農を志した経緯・背景

家の庭で家庭菜園を始めたことから農業に興味をもち、美味しいものを作りたいと思っていた。親戚の紹介で広島県果実農業協同組合連合会沼隈農園の研修を知り、応募した。地元福山の名産に携わり、地域の活性化に貢献したい。

資金の活用例

生活費や小農具の購入



研修中に工夫したポイント

- ・研修1年目はぶどうの栽培作業をメインに、土壌管理や病害虫防除、農業機械の使用方法などの栽培管理の研修を行った。
- ・研修2年目には前年の作業に加え、営農計画を立て、経営を意識したぶどう栽培(特に品種構成や作型変更で必要とする人手や経費)を行った。
- ・研修中、ぶどうの苗木を袋状のポットで1年間育成し販売する大苗育苗を行い、生産者のニーズに貢献する活動を行った。
- ・産地内で、園芸組合の行事、共同作業へ参加し、地域に溶け込んだ。

今後の取組

ぶどうの栽培面積を増やすとともに、ぶどうの農閑期にできる他の品目を勉強し、経営規模を拡大したい。

就農に向けた推移と今後

研修(H27~29)

ぶどう栽培の研修
剪定から収穫・出荷ま
での作業全般

- ・平成27年に研修開始。
- ・営農基礎や病害虫防除の講義。
- ・共同防除や産地講習会に参加。

就農準備(H28~29)

営農計画を作成し、経営
を意識したぶどう栽培

- ・園芸組合の組合長や農園
長の助力で、26aの園地、
作業場、倉庫などを確保。

現在(就農5年目)

ぶどう 47a

- ・老木を改植し、消費者の
ニーズに合った品種、土
地の特性に合わせた品種
の選定、育成。

今後の目標(就農6年目以降)

ぶどう 70a

- ・ぶどうだけでなく、他品目の
勉強、栽培を行い、経営規模
を拡大したい。

愛媛県

神野 哲彰(44歳) さやか(38歳) さん

研修先: JAえひめ中央
研修内容: 果樹(JAほ場・農家研修 等)

新規就農を志した経緯・背景

夫婦ともに他産業に従事していたが、妻の育休明けのタイミングで、自分たち夫婦が経営者となり、どこまでできるのか挑戦したい気持ちと何より夫婦が同じ仕事に楽しみながら従事できる思いから、えひめ中央農協の準備型第1期生として応募し研修を開始した。

研修中に工夫したポイント

- ・将来の果樹を主とした営農計画を考える時に、就農後の新たな挑戦の成功には未収益期間の所得確保が必要と考え、積極的に研修品目を追加し就農後の知識・技術不足を補った。
- ・JAの研修圃場だけでなく農家研修を行ったことでより実践的で、先輩農家の声を聞きながら研修が行えた。
- ・夫婦で研修を行えたことで、研修を通じて将来の営農計画を常に話しあえたことや就農に向けてJA、市、機構等の関係機関が一体となってサポートしていただいたことが非常に良かった。

資金の活用例

生活費



今後の取組

経営規模を現状維持したまま、経営の合理化や無駄を省きながら所得の向上を目指す。

新規参入者として農業に参入する厳しさを知っている一方、農業の素晴らしさも分かるため、後輩となる次世代の農業経営者を目指す者を自ら支援していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修(H26.9~28.8)

果樹・野菜の栽培技術
経営管理

- ・平成26年9月に研修開始
- ・就農時の営農類型に併せて研修品目を追加
- ・生活も夫婦で役割分担

就農準備(H28.9~28.12)

関係機関からのサポートを受け就農開始。

- ・研修先のJAえひめ中央の斡旋で、農地中間管理機構を通して利用権設定
- ・機械施設もJAから貸借

現在(就農6年目)

施設紅まどんな30a
はれひめ65a
施設甘平10a、みかん12a
きゅうり7a
花木33a

- ・中古資材でハウスを自力施工。

今後の目標(就農10年後)

施設紅まどんな30a
はれひめ65a
施設甘平10a、みかん12a
きゅうり7a

- ・経営規模は現状維持し所得の向上を目指す。
- ・後輩となる新規就農者を自ら支援していく。

都築 廣和 さん (43歳)

研修先：高知県農業担い手育成センター
研修内容：野菜（座学、栽培実習 等）

新規就農を志した経緯・背景

実家が農業をやっていたことや、前職の運送業で野菜を扱っていたことから、農業に親近感を持っていた。仕事を通じて出会った人たちから話を聞くうちに農業を行うことに魅力を感じ、就農を決意した。

資金の活用例

- ・就農準備や就農開始直後の運転資金



研修中に工夫したポイント

- ・研修期間中も、就農に対する強い意欲を持ち、将来の所得目標を意識して研修に臨み、就農する品目の検討を行った。
- ・研修受入先の指導農業士の助力を得て、農地を確保した。
- ・積極的に地元農業者と交流し、地域とのつながりを築いた。

今後の取組

- ・コスト管理を意識した経営を展開し、所得の安定化を図る。

就農に向けた推移と今後

研修（H27～28）

高知県農業担い手育成センター、指導農業士の元での研修

- ・平成27年に研修開始。
- ・野菜全般における病害虫、施設園芸における栽培技術等の知識と実務、簿記記帳等の研修を実施。

就農（H28～H30）

施設シットウ12a
（ハウス1棟）

- ・県単事業でハウスを新設。
- ・妻と共同で農業経営を開始。
- ・総合的病害虫管理技術の実施、環境制御技術の導入により、高収量を目指した。

H31～現在（就農7年目）

施設シットウ17.8a
（ハウス1棟）

- ・県単事業で既存ハウスを増設。
- ・環境制御技術等を駆使し、管内トップレベルの収量を記録。

今後の目標（就農10年後）

施設シットウ17.8a
（ハウス1棟）

- ・雇用者の人材育成や農業機械の定期的なメンテナンスを行うなどし、合理的なコスト管理を考えた経営の展開を目指す。

中島 康太 さん (33歳)

研修先：先進農家

研修内容：野菜（栽培技術・農業経営全般）

新規就農を志した経緯・背景

高校卒業後、農業法人就職した。水田経営の基礎的農業技術をそこで学んだ。自身で農業経営に取り組みたいと、アスパラガスの先進技術を学び、施設園芸を中心に水田経営にも取り組むこととした。

研修中に工夫したポイント

- 初めての施設栽培（アスパラガス）であり、技術面や経営面での勉強となった。
- 先進農家は、JAアスパラガス部会でも特に後継者育成に実績のある農家であったことから、ポイントを押さえた指導をいただいた。
- アスパラガスは永年性の作物であり、地上部と地下部の増強を把握するのが難しい品目であるが、地上部の状況や地下部で動きを研修先でしっかり指導をいただいた。特に、施設内の温度管理や施肥・かん水のタイミングで収量品質に大きな差ができることを学んだ。

資金の活用例

生活費、就農準備費用
（研修から就農後の経営が安定するまで、資金面で支援があり助かった）



今後の取組

これまで経営の中心であったアスパラガスについてはより効率化・省力化を進めていきたい

管理委託が増えている水田についても、機械化による効率的な管理作業を進めていきたい

経営安定・雇用の確保面から新品目導入を検討したい

就農に向けた推移と今後

研修 (H28~29)

- アスパラガス栽培の基礎管理（整枝・立茎・かん水施肥・温度管理技術等）
- 関係機関・部会等の支援で計画的な就農準を実施（圃場・施設機械等）

就農開始 (H29)

- 施設予定地の土づくりを前年度実施 (H28)
- 施設の導入 (19a)

収穫1年目年のH30年度には県アスパラ共進会で新人賞を受賞。さらにR2年度は10a収量の部で最優秀賞を受賞。

現在 (就農6年目)

- 法人格への移行
水稻管理受託の面的拡大
- 法人格に取得に伴い資産等の管理や経営改善の取組強化
- アスパラガス栽培の効率化・水稻の効率的な管理

今後の目標 (就農5年後)

- 法人格のメリットを活かせる投資の拡大・人材の育成確保
水田での新たな経営品目の検討
- 周年雇用できる経営基盤
特に水田の利活用の検討
- アスパラガス生産を継続し雇用の安定確保を図る

匿名希望 さん (43歳)

研修先：杵築いちご学校

研修内容：野菜(座学、栽培実習、農業機械操作)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に勤めていた際に東京から大分へ異動。大分県の自然に触れ「一生続ける仕事」として農業経営を考える。自身の大好きないちごの研修施設を知り、入校を決意。

資金の活用例

運転資金、生活費



研修中に工夫したポイント

- ・研修途中でも自分が気になる手法は要望してカリキュラム・模擬経営へ追加し、あらゆる栽培方法を試験した。気になる産地(県外)を調べ、視察研修を要望、実施した。
- ・関係機関が企画する新規就農者向け研修会に参加
⇒品目が違っても「新規就農」という目標は一緒のため、共通の話題が多い
- ・就農前であったが、地域のいちご部会と交流を持ち、研修会等に参加
- ・関係機関から情報を収集し、就農時のハード事業内容を早めに整理

今後の取組

資材が高騰しているため規模拡大は考えていないが、いちごのシーズン以外で初期投資の少ない品目栽培に挑戦したい。

就農に向けた推移と今後

研修1年目(H28~H29)

- ・H28/9~研修開始
- 農作業全般
- 実地栽培研修、栽培、
- 病虫害防除講習

研修2年目(H29~H30)
就農準備

- ・模擬経営研修
- ・就農準備
- ⇒就農地はいちご学校の紹介で決定。国庫事業を活用し施設を建設。研修終了後はすぐに就農



就農(H30~)

- ・24aの栽培面積でベリーツ、さがほのかを栽培、出荷
- ・R2に法人化
- ・R3の成績
単収5.1 t/10a
(部会平均 4.5 t/10a)



今後の目標(就農4年後)

- ・引き続き現在の栽培体系を続ける
- ・シーズン外で他品目を検討(とりあえず家庭菜園レベルから)

平良 卓也 さん(31歳)

研修先：農業大学校
研修内容：野菜(栽培管理実習 等)

新規就農を志した経緯・背景

前職に勤めながら自給自足のため家庭菜園を始めたことがきっかけで作物を育てる楽しさを知った。自身で作った野菜を多くの人に食べてもらいたいという気持ちから農家となる夢や目標を持ち、就農を志した。

研修中に工夫したポイント

- ・作物ごとの所得率と労働時間を調べ、高収益を得られるような作物の組み合わせを試行錯誤し、圃場で実践した。
- ・就農予定地の青年農業者の会に参加し、地域活動を通して農地取得のための情報収集を行った。
- ・積極的に先進農家の手伝いを行うことで効率良く管理する方法や、販路先の情報などマーケティングについて、より具体的な就農のイメージを持つことができた。

資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・授業料や資格取得費
- ・農機具や資材の購入費



今後の取組

多品目、高単価の作物との組み合わせにより高収益を確保し、六次産業化も含めた経営に取組む。また現在、特別栽培農産物の認定取得に向け積極的に取り組んでおり、環境保全型農業を目指すとともに、付加価値を付けた農作物の栽培とブランド化を目指す。

就農に向けた推移と今後

研修(H31.4~R2.3)

- 露地や施設野菜に係る農作業全般。主にミニトマトやメロンの栽培管理。
- ・大型特殊免許など農業機械の免許取得。
- ・農薬や施肥管理について学ぶ。



就農1年目(R2.4~R3.6)

- 雇用就農。農作業全般。(野菜や果樹の多品目、減農薬栽培)
- ・雇用就農先で減農薬栽培について学ぶ。
- ・農業委員会へ相談し独立・自営就農に向け農地(23a)を確保。



現在(就農2年目)

- 独立・自営就農。(R4.5)
- オクラ(露地:23a)
- かぼちゃ(露地:23a)
- ・規模拡大の予定。
- ・農業機械の取得。
- ・町の事業(農水産業担い手支援住宅整備事業)を活用する。



今後の目標(就農5年目)

- 露地:オクラ(25a)
- 施設:メロン(10a),ゴーヤ(10a),ミニトマト(10a)
- ・就農3年目以降徐々に規模拡大。事業を活用した施設を導入し露地野菜と並行して施設野菜にも取り組む。